9

METRONAUTS GENTLEMAN'S MAID SOPHIE

紳士付きメイドのソフィーさん

つめとろ
Tumetoro

R18

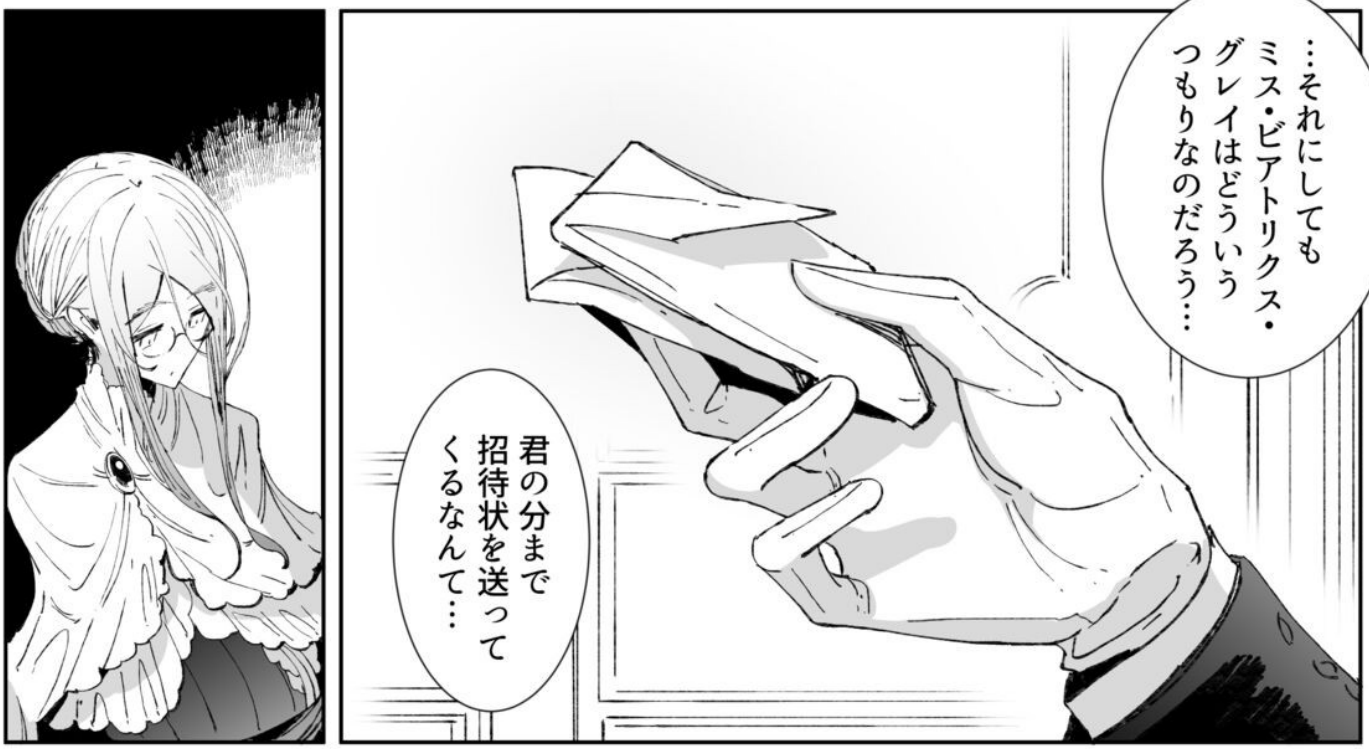
9

Gentleman's Maid
Sophie

失礼
致します

{ 楽しいパーティーを }

申し訳ございません…
お待たせをしてしまって…
…良い
…勿体ないお言葉です…
あぁいや…本当に…


…それにしても
ミス・ビアトリクス・
グレイはどういう
つもりなのだろう…
君の分まで
招待状を送って
くるなんて…

無理に出席
しなくても
いいんだよ
いえ
立ち振る舞いには
心得がありますし
従者も無しに
エドワード様おひとり
でというわけにも…
それに…
…それに？

…いえ
ギアアア…
エドワード様に
とって実りある社交
になれば私も嬉しく
存じます

あぁ…
エドワード
様…
ようこそ
おいで頂きま
した…♥

さぁさ
こちらへ
みなさんもう
お待ちですよ
えっと
時間に遅れた
かな…？

いいえ
ちょうどいい
お時間です

…え？

だって
今日の主役
は…
あなたと私
なのですから
…♥

さぁ
婚約披露の
続きを…♥

なっ
なんで…
話が違う
じゃないか
…っ
パチ
パチ
パチ

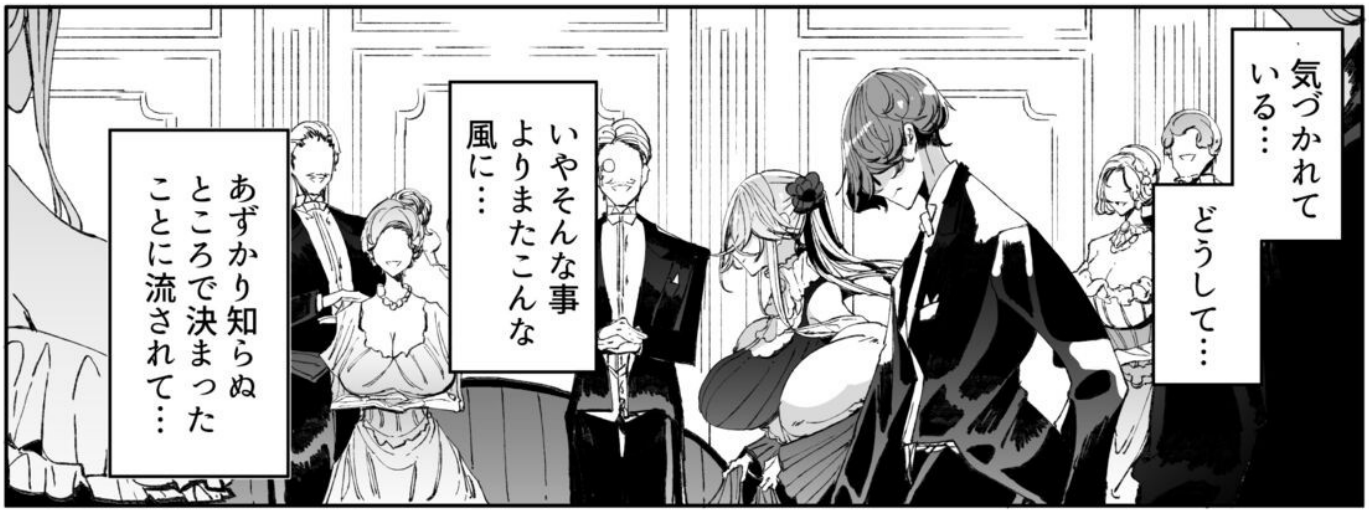
きゃっ…

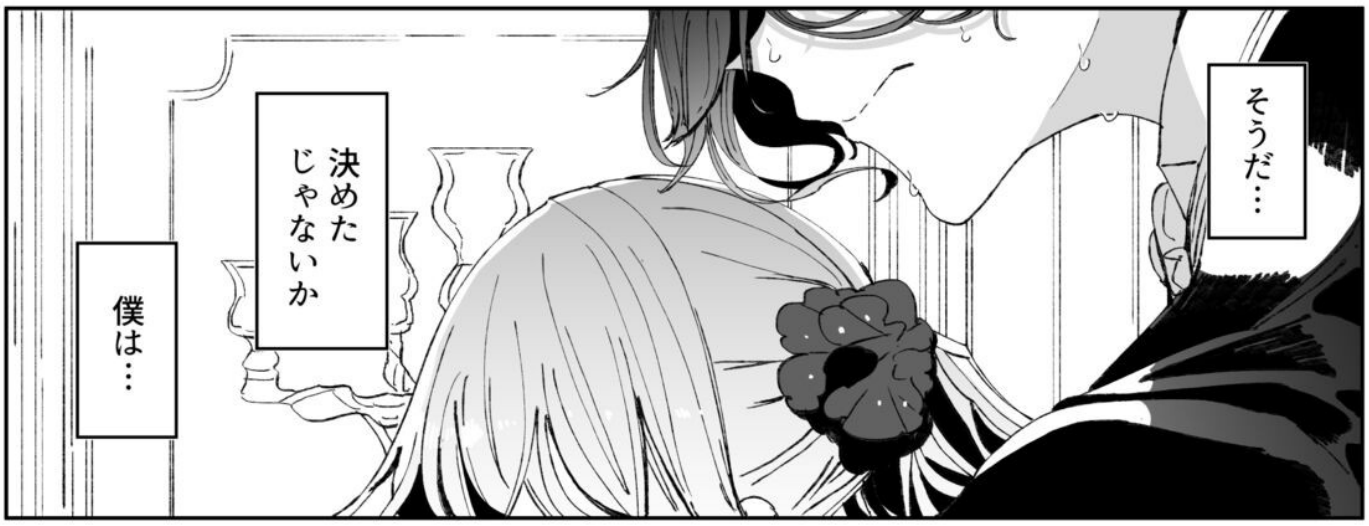
あっ…!
バッ

ソフィーさんっ!?
ガシッ
ご安心を
エドワード様が成すべきことをなす限り
あれには何も致しませんよ

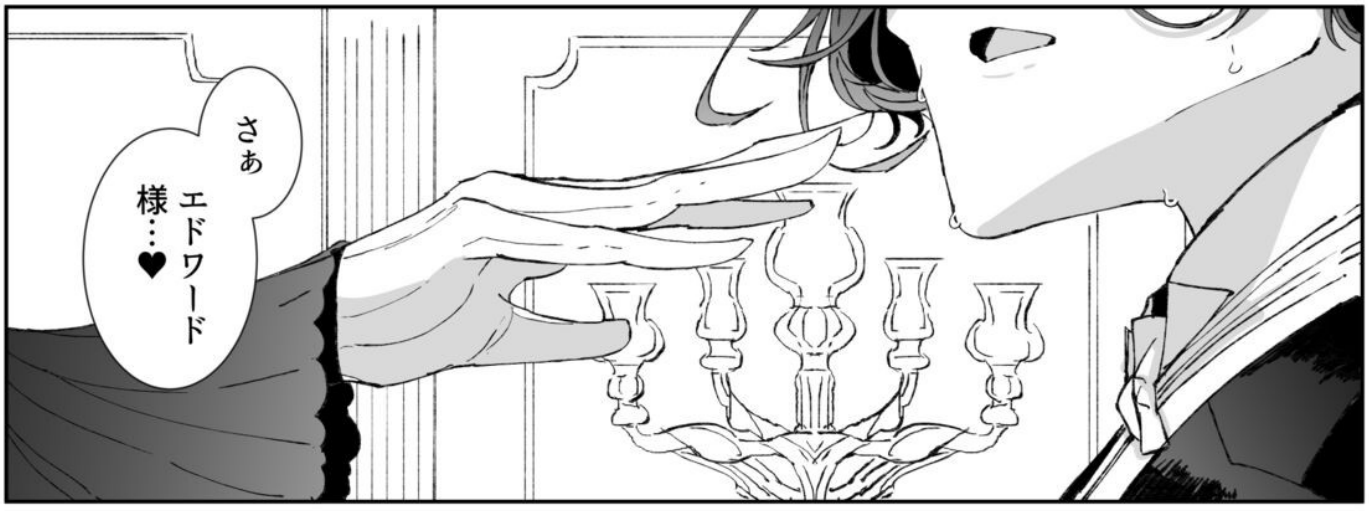
ふふっ
どうして狼狽えていらっしゃるのかしら…
たかがメイドひとりのことなのに…

さぁ
どうぞ…
前へ…


気づかれている…
どうして…
いやそんな事よりまたこんな風に…
あずかり知らぬところで決まったことに流されて…


そうだ…
決めたじゃないか
僕は…

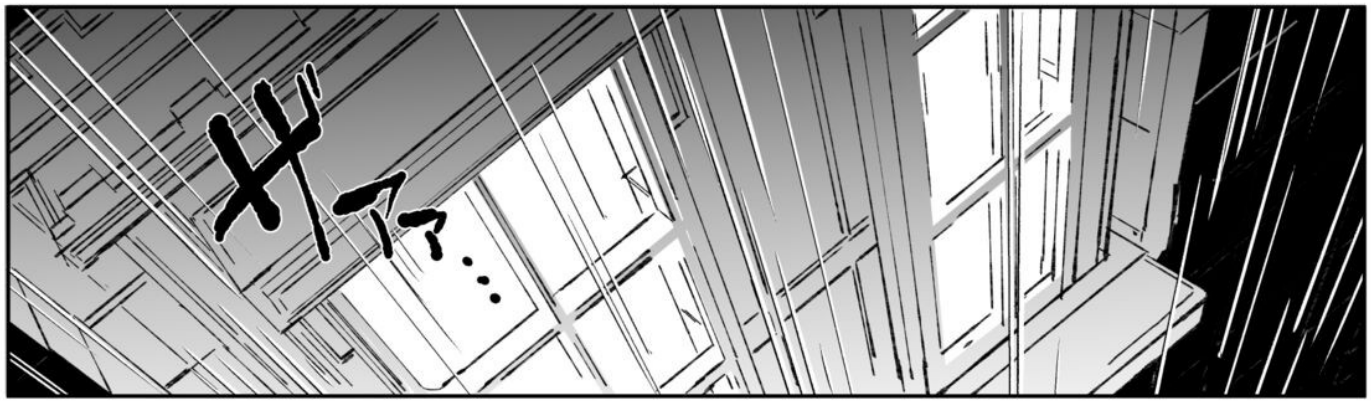
僕は…っ


さぁ
エドワード様…♥

今度は
あなたから
手を取って
跪いて
そして
ひとこと
愛を誓って

…ミス・ビアトリクス・グレイ
はい♥
僕は…
僕は！

なっ!?
ガシッ
に…を…
ガクッ…
馬鹿な人…


ザアア…

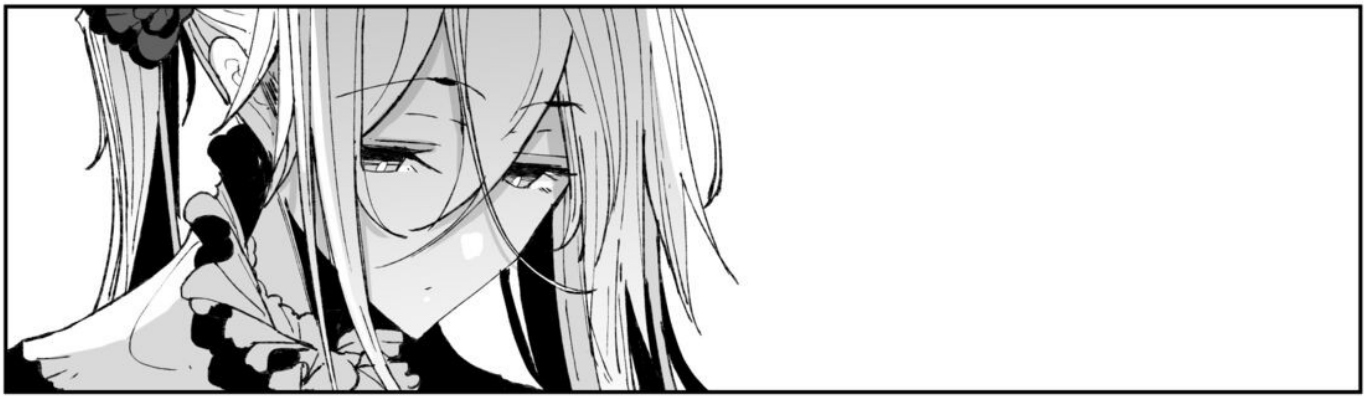
あ…

ここは…？
…あぁそうだ…ソフィーさんは…？

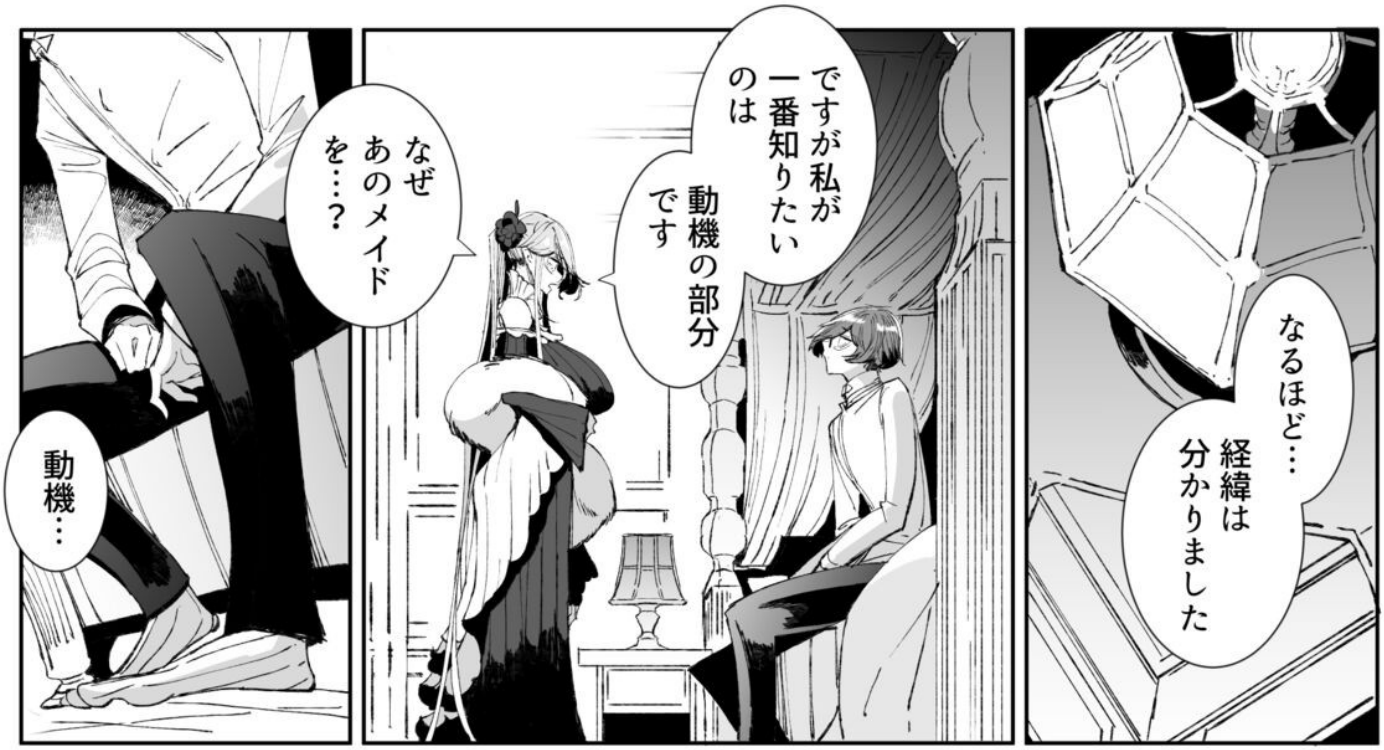
はぁ…

開口一番自分でも私のことでもなく…

それほどに
お好きなのね
あのメイドの
ことが…



お話
お聞かせ
頂いても？

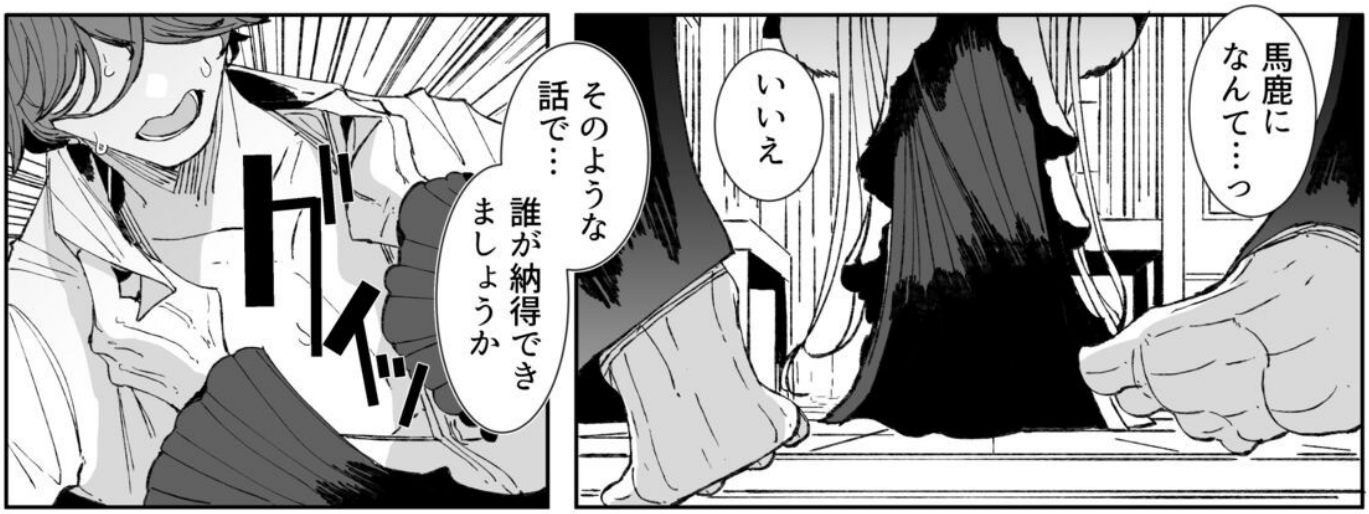

なるほど…
経緯は
分かりました
ですが私が
一番知りたい
のは
動機の部分
です
なぜ
あのメイド
を…？
動機…

…こんなこと
君に直接言う事が
失礼なのは重々承知
なのだけれども…
ひとめ見て
触れて…
そういうもの
なんだと…
運命のような
ものを感じて
いたと…
思う…

こんなこと
はじめてで
…
だから
…っ！
ぷっ…
ふふっ…

あ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ

馬鹿にして


馬鹿になんて…っ
いいえ
そのような話で…
誰が納得できましょうか
ガイッ

たとえ本心からそうであったとしても
客観的事実はふざけているでしょうに
運命だなんて…
そんなものに翻弄されるのは
マクベスやオイディプスだけで十分です

エドワード様は…

エドワード様は
その運命的な女の何を知っていらっしゃるの？
それは…っ！

それ…
は…

そんなこと関係ないじゃないか…っ
いいえ
関係ありますよ…
だって…

だってあの女こと
調べてみても
なーんにもわからなかったのですもの

あなたの叔父までは辿れましたが
それ以前は何も！
どこで生まれ育ったのか…
家族関係も友人知人も
そもそもこの国の産まれなのかも…
生きていた痕跡が何もかも！

異常ですよ…
こんなことは意図的に痕跡を消さないとできないことです

そして逆に…
トッ…
今は何故こんなにも無防備なのか…
まぁ…

パッ
グッ
もうどうでもいいことですけどね

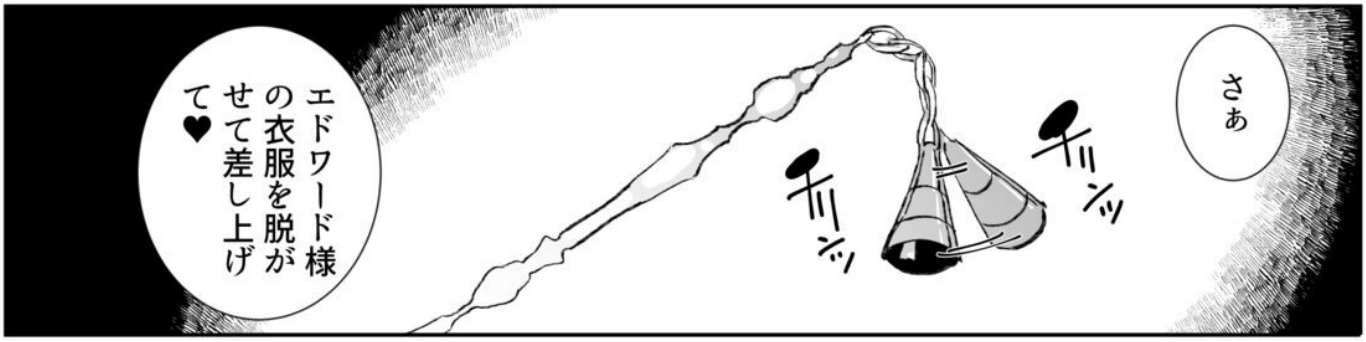
ゲホッ
ゲホッ
なっなにを…っ!?
これを嗅ぐと体に力が入りにくくなって体も火照ってくるんですって
いわゆる媚薬というものです

くら…っ
ふふっいい効き目ですね

やはり
エドワード様は
ご病気なのです
チリン
チリン
ですから
ここでしっかり
治療をしましょう
コツ
コツ
コツ
あなた
たちが
本来絶対に触れる
ことが許されない
お体です
バッキンガムの
芸術の如き調度品を
手入れするように…
丁寧に、敬意を
もってご奉仕
なさい
はい
お嬢様…
チリン…
ふふっ♥
荒療治の方が
案外効くかも
しれませんよ

また気絶されたら…
条件を変えて繰り返しましょう
何度でも…
やっ
やめ…っ!!
うあっ…
くっ…
え…？
なっ…
なんで…
…ふふっ

まさか…
この程度の準備でよかったなんて…
ちょろすぎ…♥


さぁ
エドワード様の衣服を脱がせて差し上げて♥

なっ
なんだこの感じ…
単に何も感じないというだけで…
ソフィーさんと触れあっている時とはまるで違う…
一体…
どういう…

ガレッ
まあっ！

さっ流石は
エドワード様
…
ご立派なものを
お持ちですね！
素敵…
♥

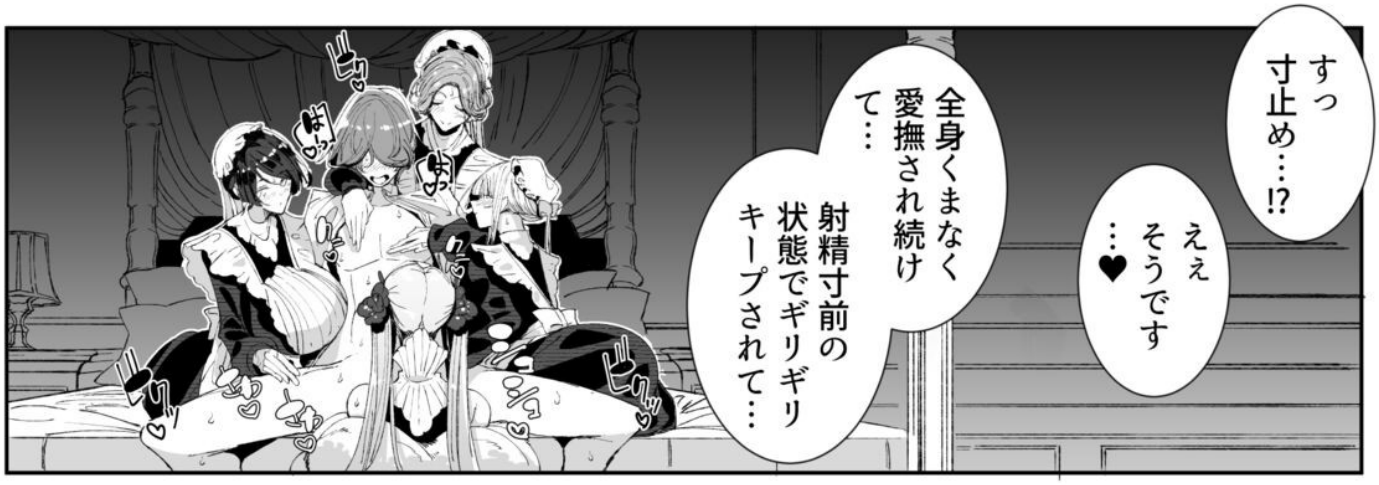
さぁ
あなたたち
それでは
手筈通りに
…♥
はい
♥
お嬢様…
♥

エドワード様…
これから貴方様には…
あの女とのこれまでの経験をすべて洗い流すような
そんな暴力的な快楽を全身に受けて頂きながら…
わたしと子作り交尾して頂きます♥

こっ
子作りっ!?
耳、首筋
乳首、指
鼠径部と…
そして
もちろん…
ここ
も…♥
この者たちが
これからずっと
ねっとりと
じっくりと
愛撫し続けます
よ…♥

あぁ…
逞しい…♥
そして
とても…
敏感なの
ですね…♥
先走り汁も
すごい量…♥
ふふっ
…♥
本当は
すぐにでも
交わって…
お子種を
頂きたいの
ですが…
ですが
普通の事を
していては
意味が無いと
思いまして…♥
なっ!?
なにを
…っ!?

ガシッ
きっ君たちっ
何を…っ！
ギュッ
ギュッ
いけません
旦那様動いては…
やわらかい
素材ですから
ご安心を
ふふっ
エドワード様
のここ…
素直に飲み
込んでくれま
したね…♥
よく
お似合い
ですよ♥
こうやって
栓をして…
はーっ
はっ
はっ
はっ
エドワード様
にはこれから
寸止めで
射精を我慢し続けて
頂きます♥

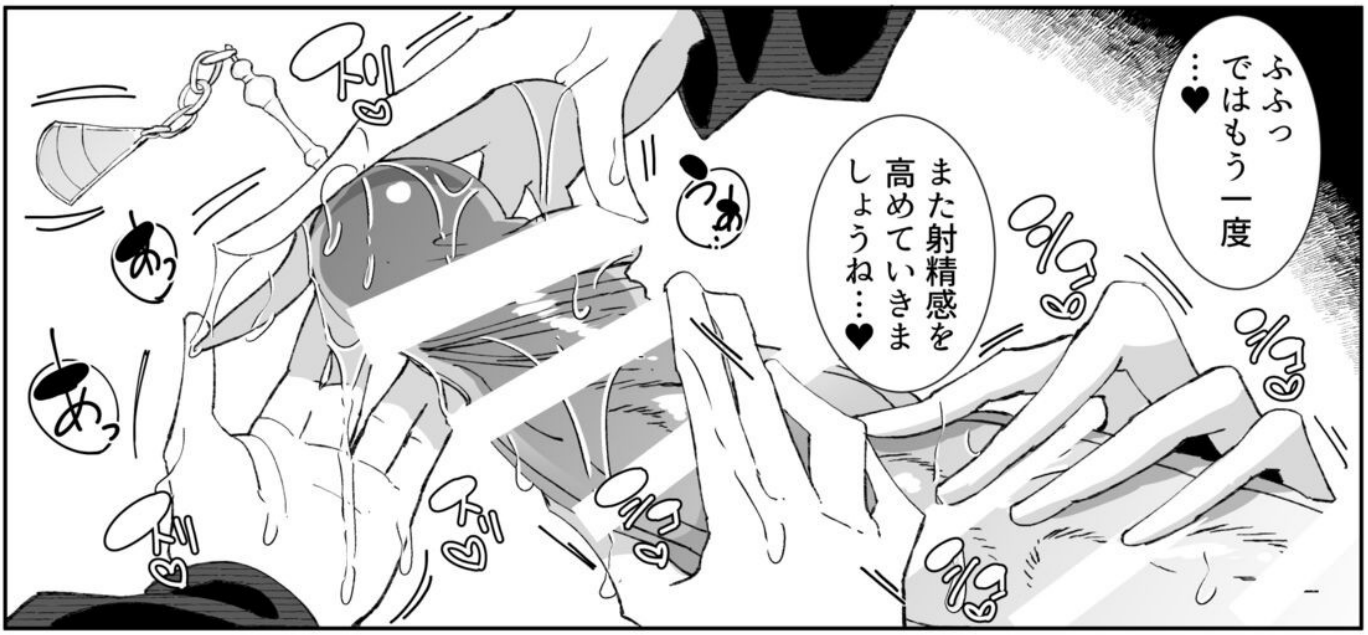

すっ
寸止め…!?
ええ
そうです
…♥
全身くまなく
愛撫され続け
て…
射精寸前の
状態でギリギリ
キープされて…

あとすこし
…♥
あとほんの
すこしで…♥
きもちいい
お射精を
びゅるるる
〜〜って♥
ほら…♥
もう
イクっ…♥
イッちゃう
…♥
出ちゃう
…♥
でも…♥

はい
ストップ♥
ベルが激しく
鳴ってわかり
やすいですね…♥

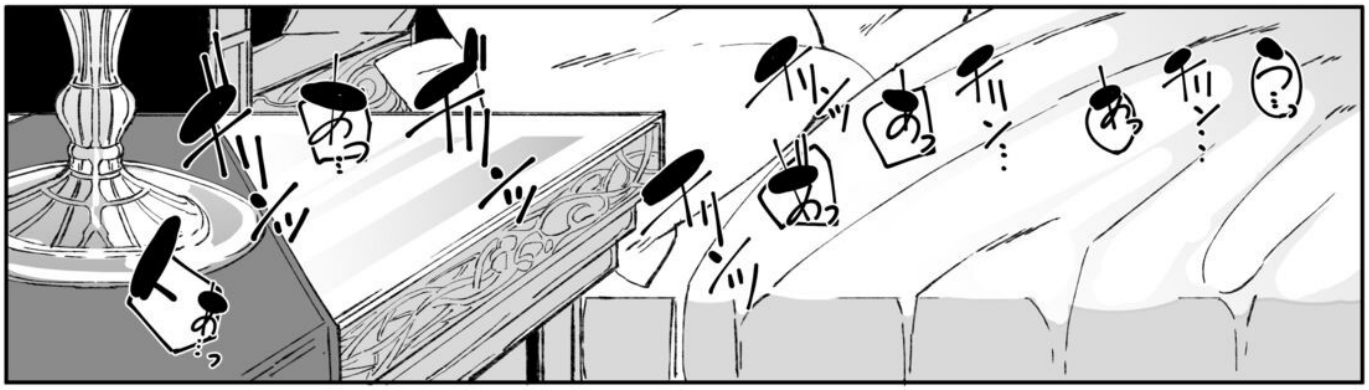
まずは
一回…
さぁ
呼吸を整え
て…

うあ…
あ…っ


ふふっ
ではもう一度
…♥
また射精感を
高めていきま
しょうね…♥

初夜から
こんなに沢山の
雌を相手にして
尿道にも
こんなものを
入れられて…♥
ふふっ♥
それでも快楽を
感じているので
しょう…♥
素敵…♥
とっても素敵
エドワード様
…♥

さぁ
このまま内と外
から刺激を与え
られ続けて…
寸止めされ
続けたら…
どうなって
しまうのかしら
…♥
頑張って
くださいね…♥


チリン…
チリン…
チリンッ
チリンッ
チリンッ
チリンッ
あっ
あっ
あっ
あっ

ビクッ
ビクッ
キュウウ…

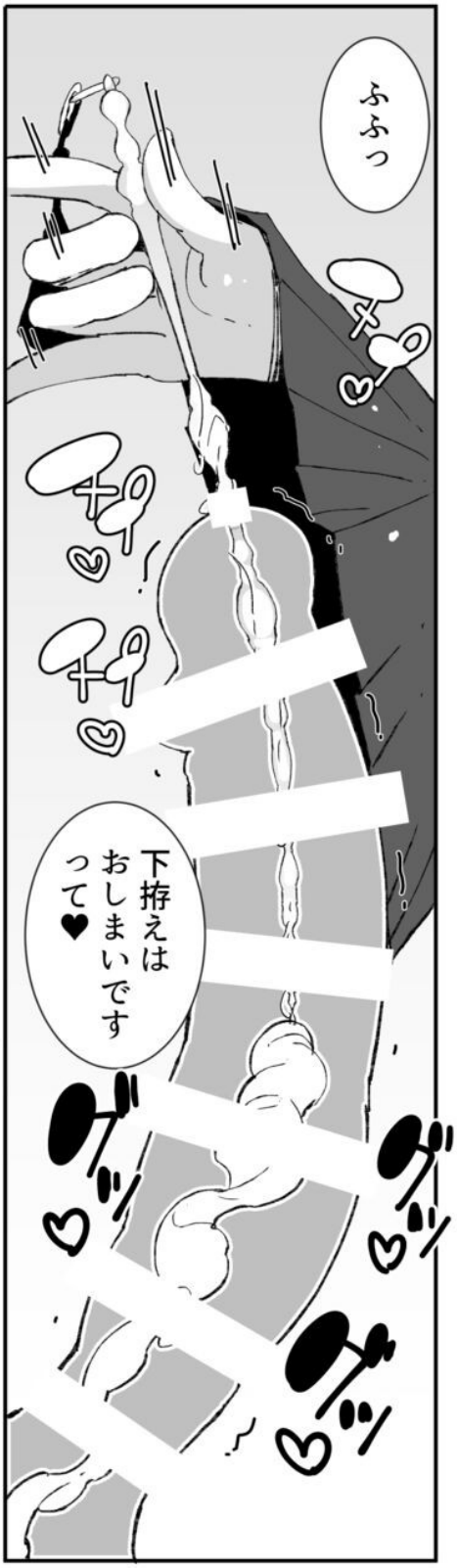
ふふっ
これで7度目の
寸止めですね♥
エドワード様
から懇願して
頂ければ
すぐにでも
お射精して頂け
るのですが…♥
ビクッ
ビクッ

いかが
ですか？
エドワード様
から私に触れ
て…
愛してい
でもひとこと
言って頂ければ
チリンッ
ビクッ
ビクッ

この先色々楽
だと思いますよ？
そっ
それなら
…っ

それなら
君の方から
真っ先に
触れてくるものだと
思っていたのに…
こうやって
使用人と器具越し
にばかりで…
怖いの
かい？
…
ふーん
怖いの
ではなく
欲張り
なんですよ
わたし
美味しいものは
正しい時に欲しい
だけ頂きたいのです
だからこうやって
寸止めと愛撫で快楽
の虜にして
身も心も
ぐずぐずに熟れ
させたいんです
♥

お嬢様
そろそろ…
あぁ
こういう
ものなのね


ふふっ
下拵えは
おしまいです
って♥

即堕ち
されるより
は逆に
調教し甲斐が
ありますね♥
引き抜いた
瞬間一気に咥え
込みますから…
さぁ
イッて…
イッて
…♥
イけ♥

ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ

あぁ…♥
これがエドワード様
のお味なのですね…
嬉しい
…♥
あら
涙が出るほど
気持ちよかった
のですか？
えっ…？
あれ
…？
なっ
なんで…
止まらない
…っ!?
元々こういう
ものだと…
女性相手なら
誰にだってそう
なるものだと…
でも
これは…
彼女にだけ
なのか…？

どうして…
私だけ…

いえ…
そうね
苦しまれたり
気絶されたり
するよりは…
状況は良く
なっているとと
するべきね…

その涙も
きっと止めて
みせます
ですから
今は更なる
快楽を…
エドワード様の
思考を快楽で埋め
尽くして差し上げ
ましょう…

お嬢様のフェラチオ…
初めてなのにお上手でございましょう？

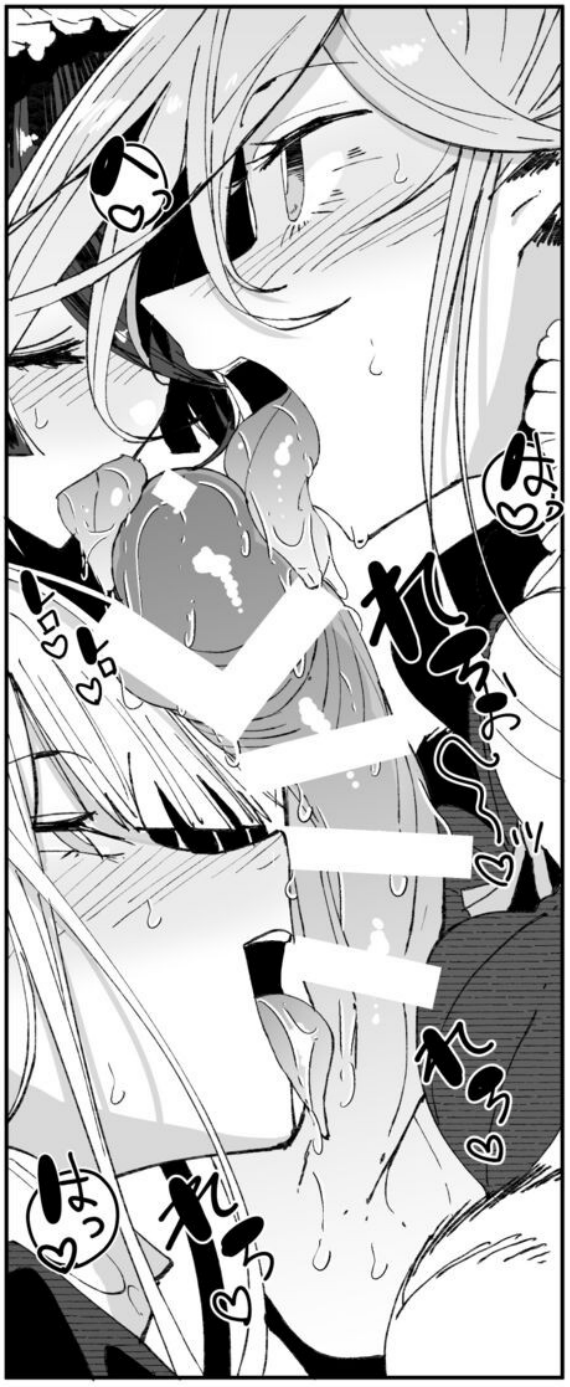
旦那様のために…
殿方を悦ばせるためのレッスンをお受けになられた成果ですわ…♥
我慢されても無駄ですよ…
あんなエグい口淫に…耐えることなどできませんから…♥
さぁ旦那様…♥
お嬢様のお口にまたお射精を…
どうぞ♥

あぶっ
ふぁ…
ビク…
あ…
ビクビク…
ビクッ…
射精感…
とまらな…っ
グリュッ!?
ふふっ♥
グリュッ
グチッ
グチュ
休む暇などありませんよ？
あの女との行為よりも
気持ち良いということを…
グリュッ
グチュッ
回数で証明して頂きますから…
ドクッ
ドピュッ
グチュッ

これだけの雌がいるのですから…
代わる代わるずーっと絞り続けます…♥
ですから続く限りずぅっと…
出し続けてくださいね…♥

ぶっ
ビュッビュッ
ぶっ
ぶっ
ぶっ

んっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
んっ
んっ
んっ


ぶっ
ぶっ

ぐぽっ
んっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
んっ
んっ
んっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽ

いかがですか？
あの女よりも気持ち良く…
いいえより満足して頂けているのではないかと…♥
ミス・ビアトリクス…
こんなのおかしい…っ
いいえ！
いいえ！
いいえ!!
おかしくなってしまわれたのはエドワード様のほうですよ

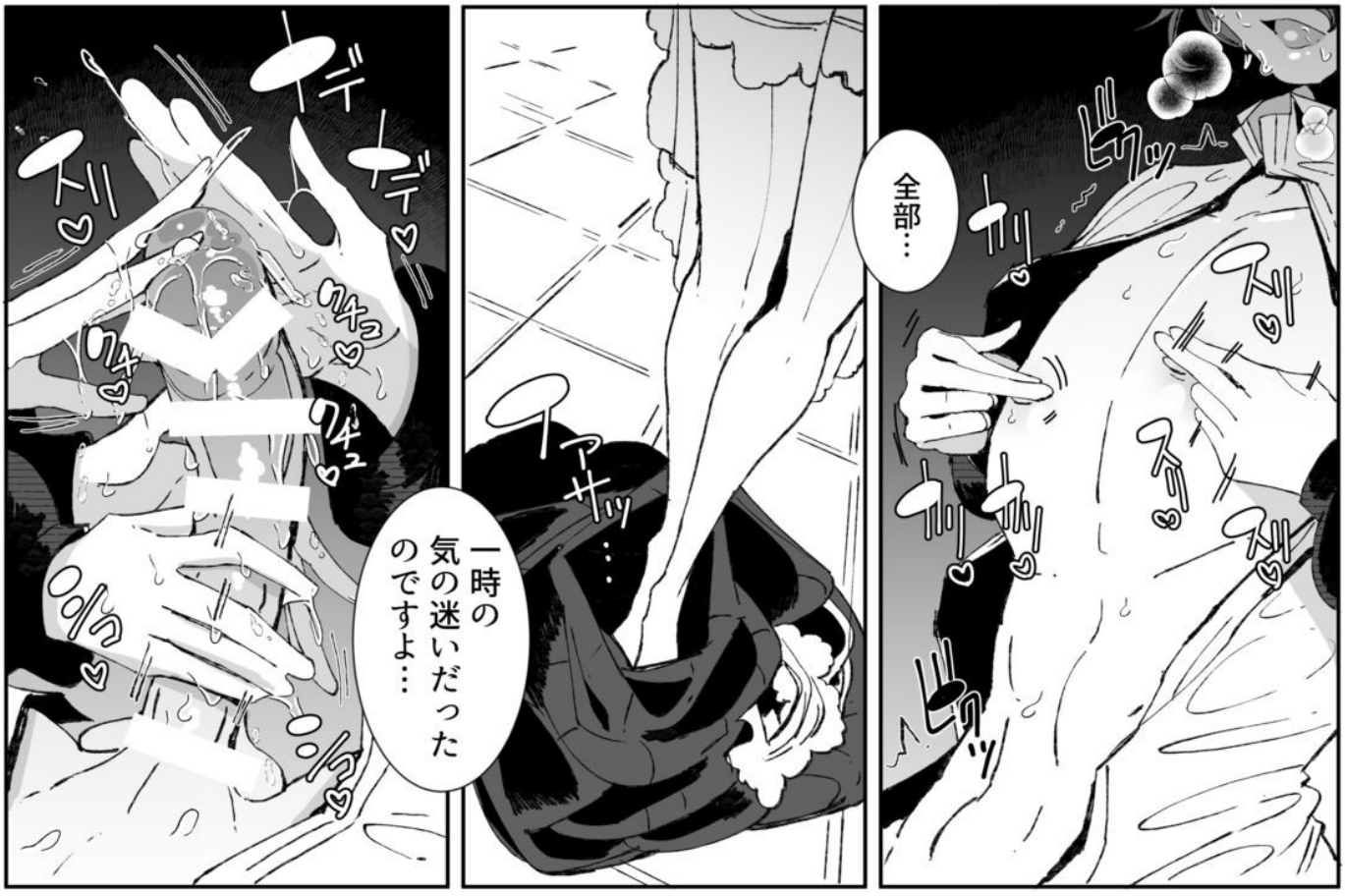
あのような
下賤な者に…
どうして
あなたのような
お方が…
かっ
彼女を悪く
…っ
いいえ
あれは良く
ないものです
許される
わけがない

歴史と伝統と
責任あるあなたの
血統が許さない
そして
否定される正当な
理由がない
私も許せる
はずがない
絶対に

お嬢サマ
あら
もういいの
？
ハイ
あのメイド
大したことも
無ク…

そんなことよりモ お嬢サマの初めてを見届けたク…
あら 殊勝な心掛けね
かっ 彼女をどうしたんだっ！
ガシッ
くっ!!

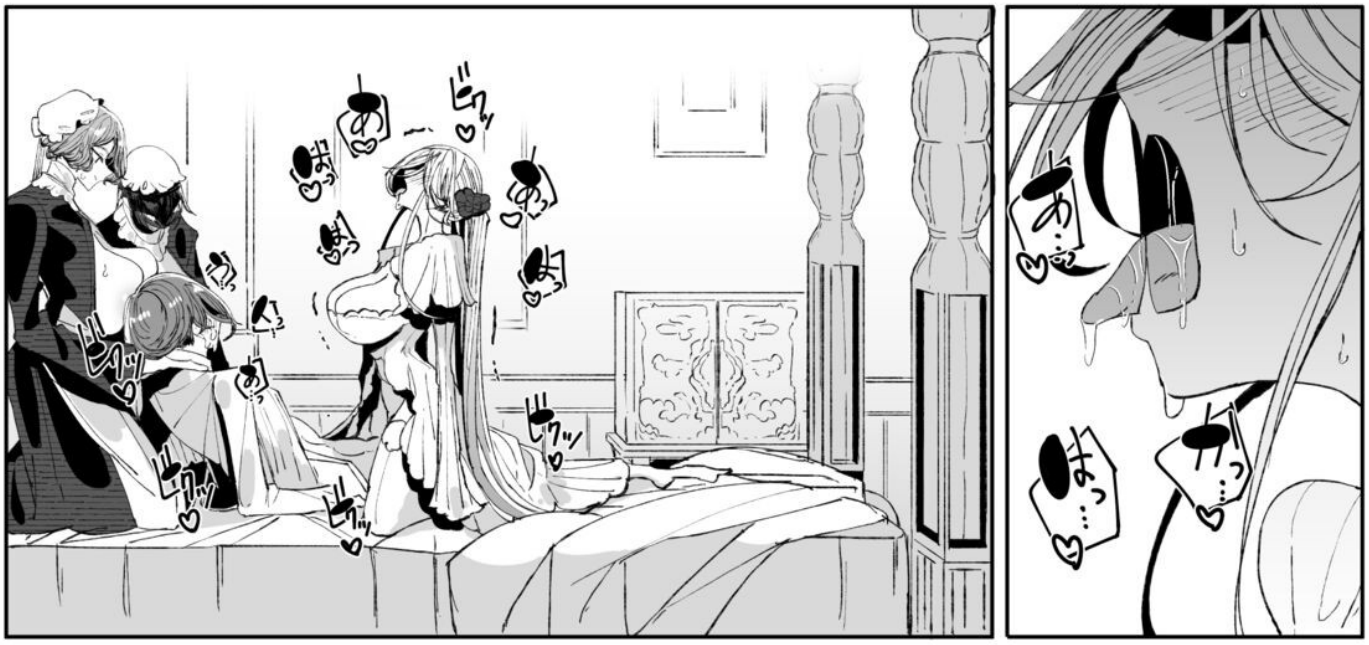
先ほども言いましたが
エドワード様が大人しくしておられる限りは…
悪いようには致しませんよ


全部…
一時の気の迷いだったのですよ…

さぁ…
私とひとつになって…
本来のかたちに戻りましょう…♥

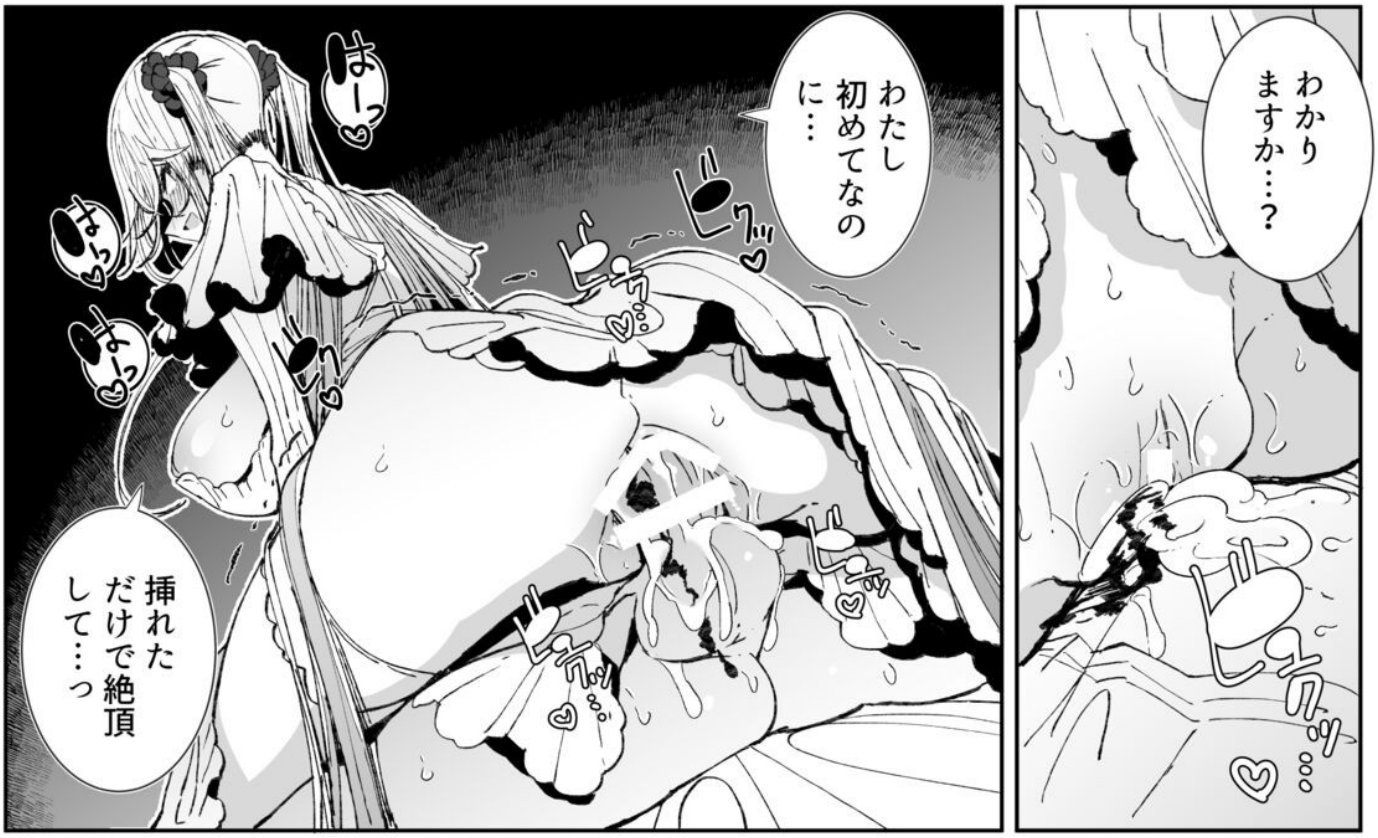
旦那様の準備も万端です♥
挿入したら即お射精できる状態に仕上げてあります♥
ふふっご苦労さま♥
だっだめだ…っ！
ミス・ビアトリクス…ッ
これ以上は…っ！
だぁめ♥
これ以上のことも…
それ以上のことも…
エドワード様の心が蕩けきるまでずっと…っ

ずっ…
つとお…♥

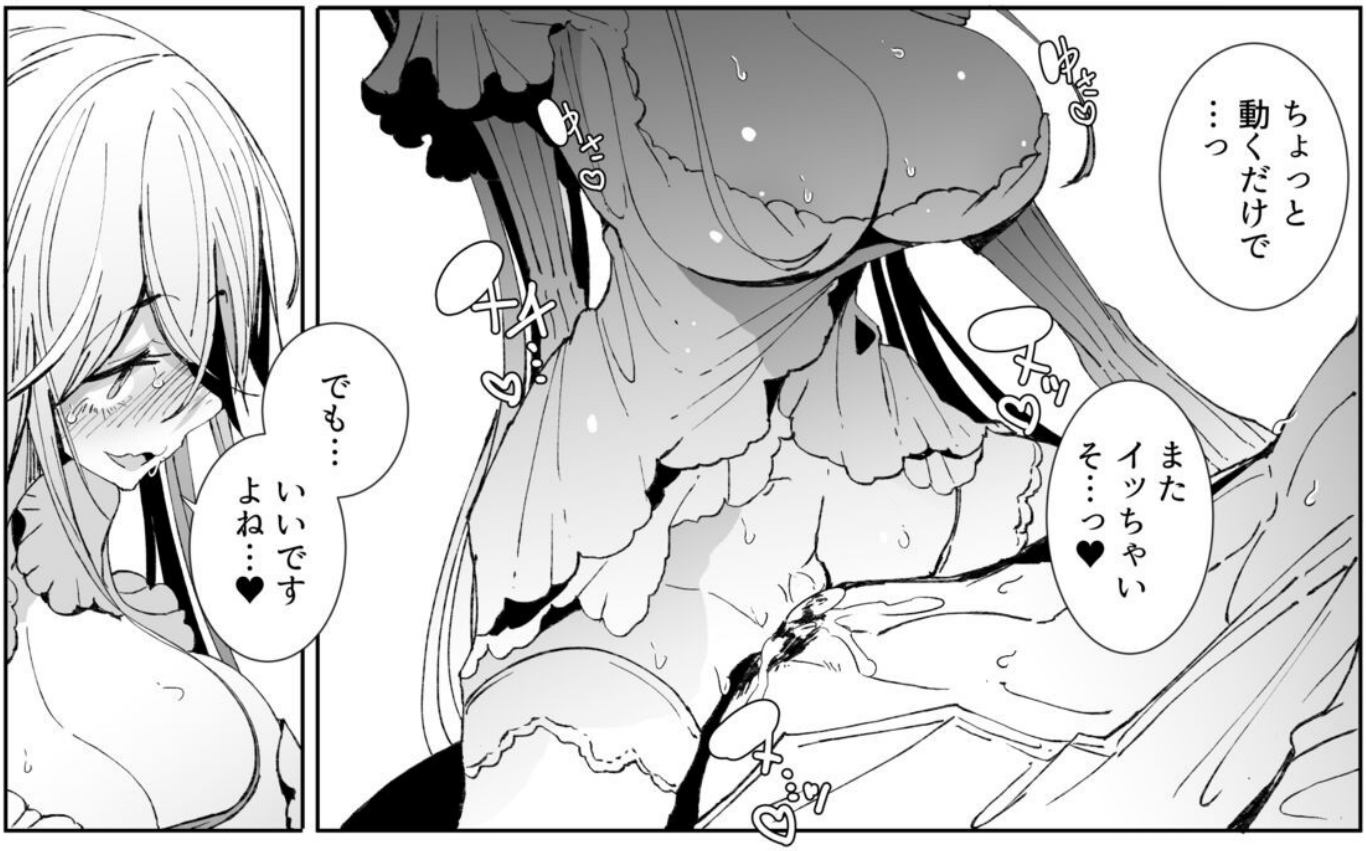


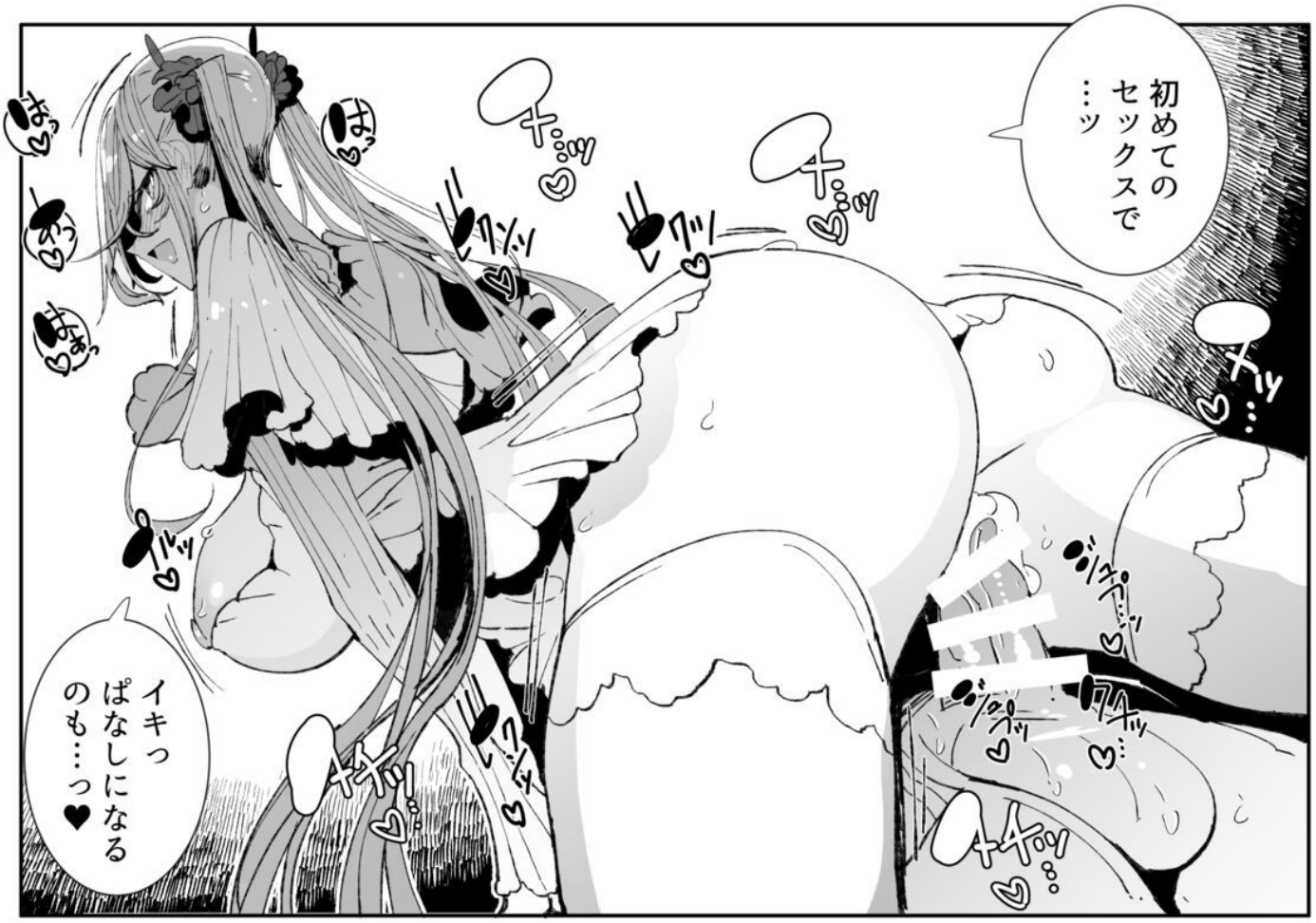
ふ…
ふふっ…♥
なぁんだ…♥

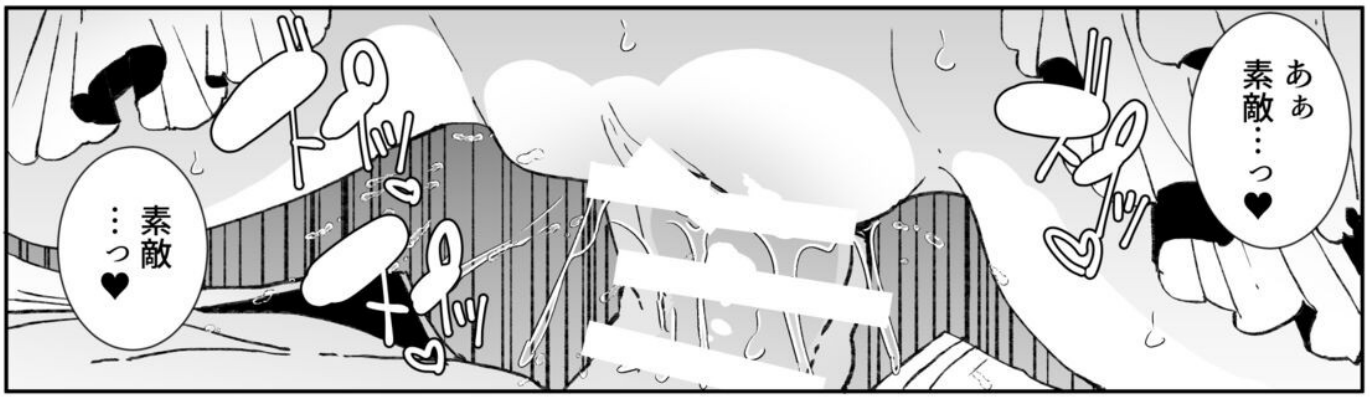
体の相性…
最高じゃないですか…♥


わかりますか…？
わたし初めてなのに…
はぁっ♡
はぁっ♡
はぁっ♡
挿れただけで絶頂して…っ

今も…中がぎゅっぎゅって…っ♥
勝手に締め付けて…♥


ちょっと動くだけで…っ
またイッちゃいそ…っ♥
でも…いいですよね…♥


初めてのセックスで…ッ
イキっぱなしになるのも…っ♥


あぁ素敵…っ♥
素敵…っ♥

こういうのだって…
「運命」だと思いませんか…？♥

ねぇ…エドワード様…

あんなのじゃなくたって…
顔のいい女も相性のいい女もこうやって都合よく体を許してくれる女も…
案外いるものなのですよ…♥
お望みでしたら毎回この者たちを呼びつけて
同じように手伝わせてもいいのですよ
ばっ
ばっ
ばっ
ズッ
ズッ
ズッ

現にこうやって我慢も儘ならず…
射精させられ続けて…♥
体はこんなにも素直なのに…♥
ふふっ♥心はどこまで持つのかしらね…♥

あぁ…♥
お嬢様のあの
恍惚とした
お顔…♥
見てる
だけで嬉しく
なっちゃう…♥
ねぇ
タチバナ
あなたも
そうは思わ
ない？
ええ…
とても…
嬉しく
思いマス…
あぁっ
エドワード
さまっ♥
エドワード
さまっ♥
エドワード
さまぁっ♥

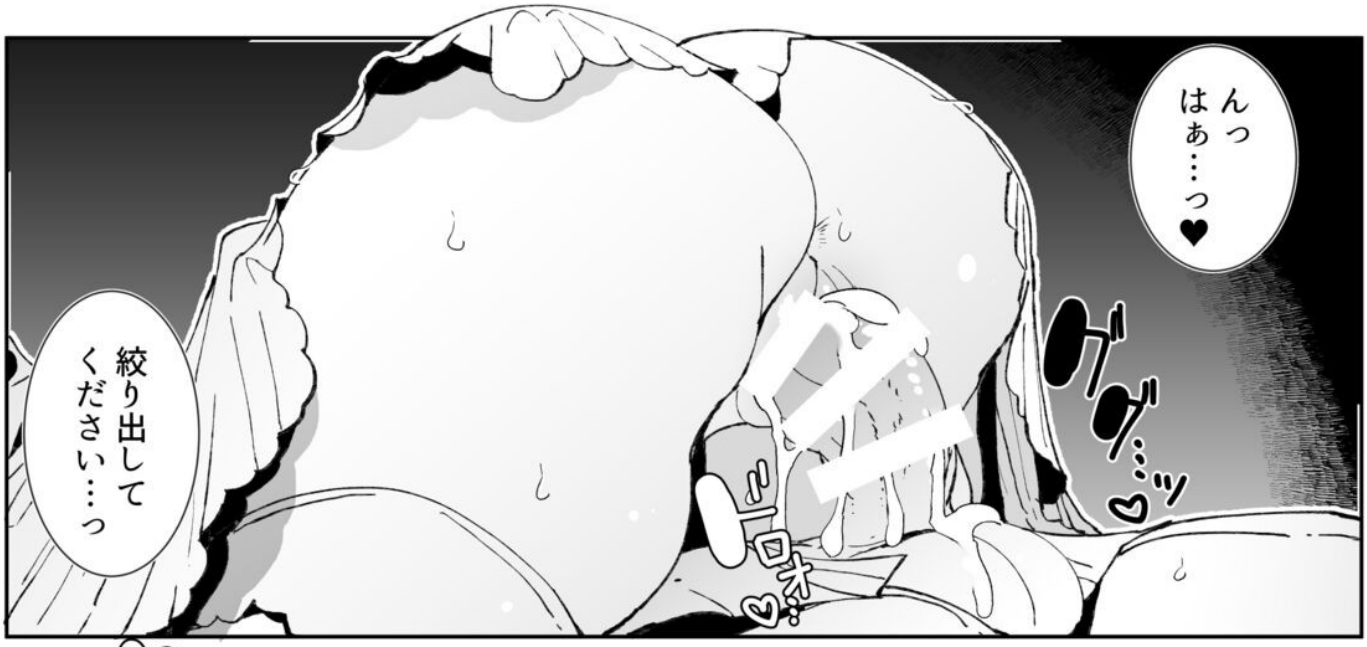
エドワードさま…っ♥
いらして…っ♥
もっと深いところ…
にいっ♥

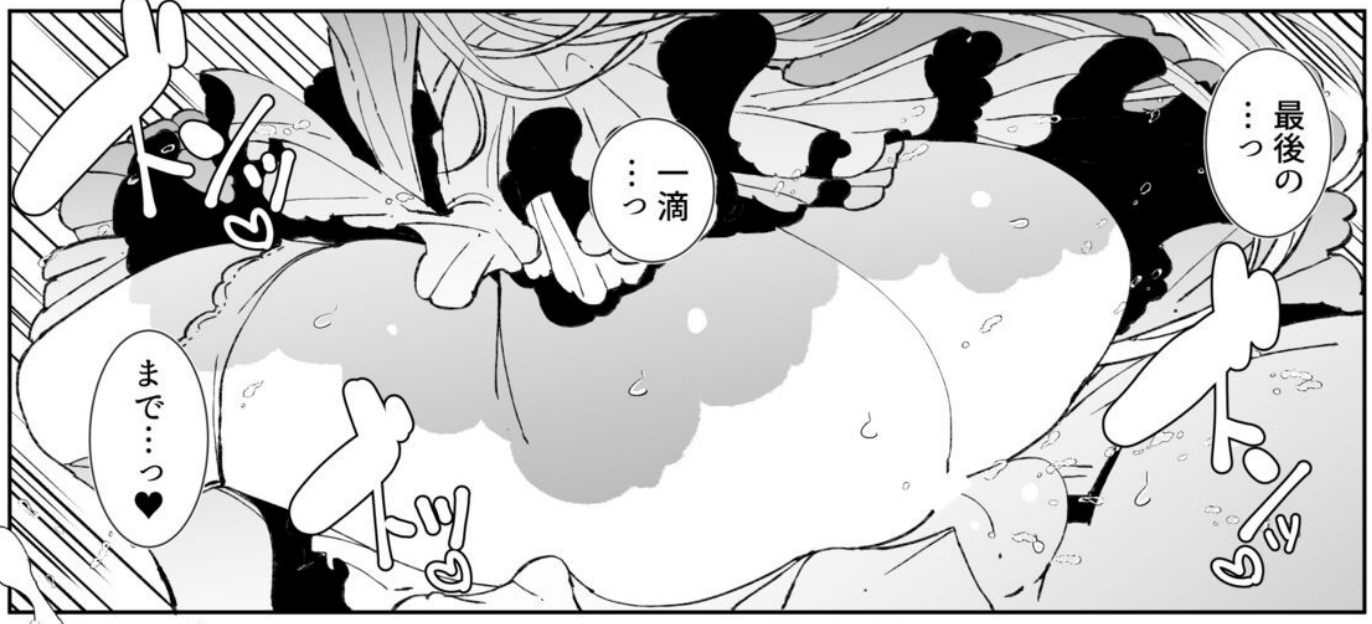
あぁ
エドワード
さま…っ
私の中
で…
いちばん
奥で…っ
わたし
でっ!!
気持ちよく
なっている
ことを…
証明…
してっ♥
もっと
…っ♥
もっと
!!
もっとお
っ!!♥

あぁ
エドワード
さま…っ
すき
…っ♥
好き
ですっ♥
愛して
おります
…っ♥
だから
…っ

だから…っ
ここでずーっと愛し合いましょうっ♥
あなたが私のものになるまで…っ
ずっと…
ずーっと…っ♥
ぽよんッ
さぁ出してください…っ♥
愛の証を…っ♥
ビクッ
私のおく…っに…っ♥
だして…っ
だしてえっ♥

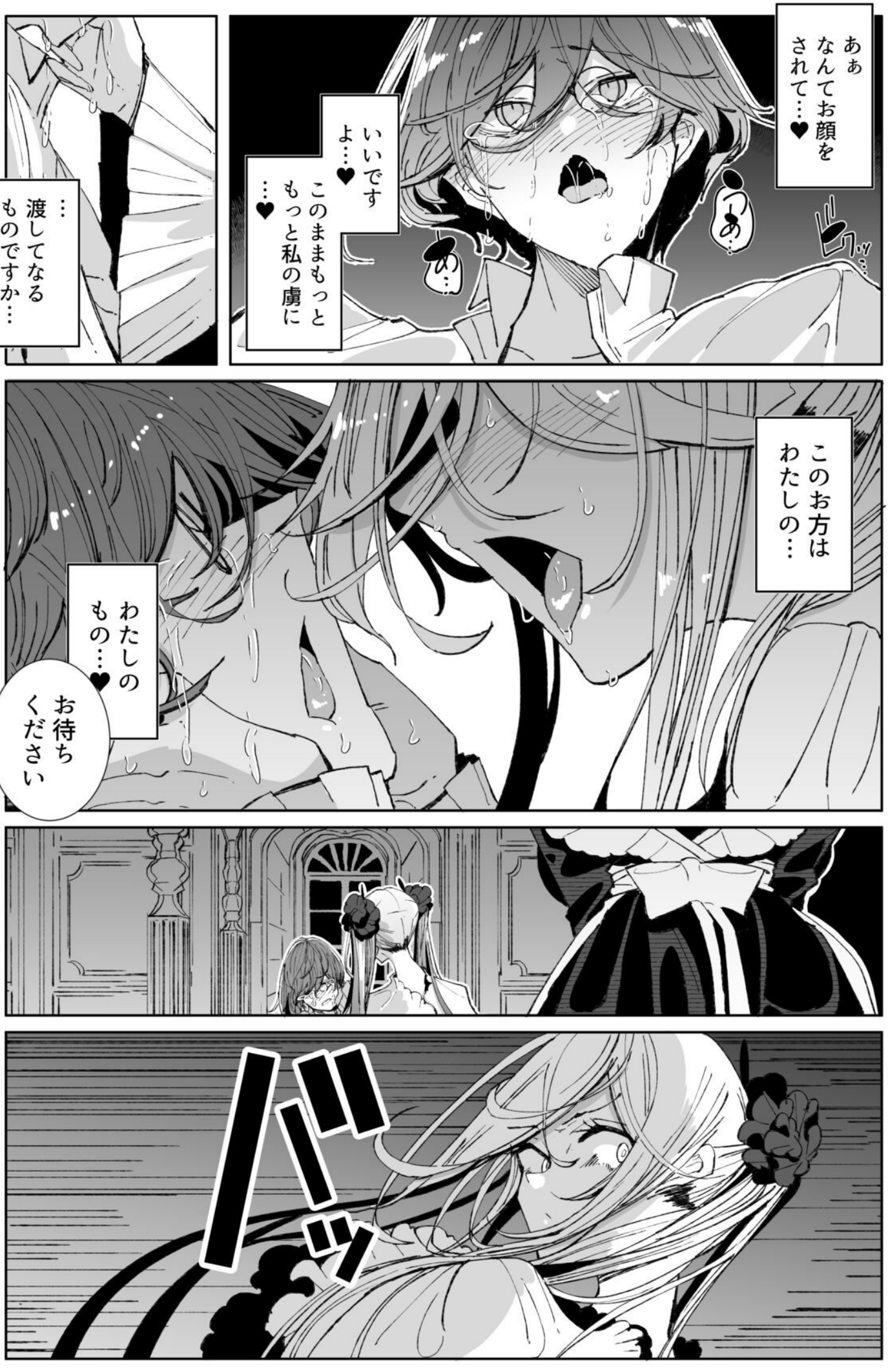
ヒクッ♡
あっ♡
あっ♡
ヒクヒク
ヒクヒク
ヒクヒク


んっ
はぁ…っ♥
絞り出して
ください…っ
ビロォ♥
グッ…ッ♥


最後の
…っ
一滴
…っ
まで…っ♥

あっ♥
ビクッ♥

グッ…


あぁ
なんてお顔を
されて…♥
いいですよ…♥
このままもっと
もっと私の虜に
…♥
…
渡してなる
ものですか…
このお方は
わたしの…
わたしの
もの…♥
お待ち
ください
バッ

オマエ…
どうやっテ
…っ！
ソフィー
…ッ！
つづく

登場人物プロフィール

ソフィー・ライト

Sophie Wright

22歳

【身長】 168cm

【体重】 秘密

エドワードの邸宅に突然やってきた謎多きメイド。少しくすんだ色の金髪とナイスなバディが特徴の女性。あと眼鏡。

メイドとしてのあらゆる仕事をそつなくこなしながら夜のお世話も欠かさない体力オバケ。口数が少なく、何を考えているのか分かりにくいが、冷静で穏やかな性格。

登場人物プロフィール

エドワード・ハリス

Edward Harris

20歳

【身長】 178cm

【体重】 72kg

ブリタニアの由緒ある伯爵家の嫡男。くせ毛と目の下の隈が特徴の青年。あと眼鏡。

とある事情により首都近郊の別邸にひとり移り住んでいる。

周囲との関係を極力絶ちながら引き籠っていたが、ソフィーの来訪により、止まっていた時間が徐々に動き出した。

あとがき

というわけで今回もあとがきです。

エドワード君大ピンチ回ということになりました。
今回の話は正直どうしようか非常に迷いました。というのも、やはり主人公とヒロインとの関係に他の女性を挟むのは読者としても好むところではないだろうということで。しかし、新キャラのビアトリクスは、この物語を描き切るうえで不可欠な人物のひとりであり、性的にも関わらせる必要がどうしてもあるのです。

ただ、超えていけない一線として、ソフィーの方は他の男性との性的な描写はさせないつもりでいますので、そこはご安心頂きたいです。そして、この物語はあくまでエドワードとソフィーが幸せになるためのものであるということも。

次回は夏コミで続きを描くつもりですが、春ティアで関係のない読み切りをまた描くかもしれないのでお楽しみに。

最後に、今回は表紙のデザインを西山様(@nishiyarna)様に依頼しました。
素敵な表紙デザインをありがとうございました。

ではまた次回

2023 12.25　自宅にて

既刊情報

とらのあな

メロンブックス

DLSITE

FANZA

奥付

著者　つめとろ
誌名　紳士付きメイドのソフィーさん９
発行　めとろの一つ
印刷　PICO
連絡　tsumetoro@gmail.com

2023 令和5年　12/31　コミックマーケット103　2日目　初版

警告　本書を無断で転載又は管理下におけるサイトで閲覧可能な状態であることを黙認する場合、閲覧またはDL１回あたり2000円を当方に支払うことに同意したものとみなし、訴訟の際同様の算出法で請求します。

For English speakers, I can prvide you an English version. If you need it, please accsess here, FAKKU(https://www.fakku.net/artists/tsumetoro).

Warning　Do not repost this book without my permission.

Sophie & Edward

Gentleman's Maid Sophie Tsumetoro

PRESENTED BY METRONAUTS